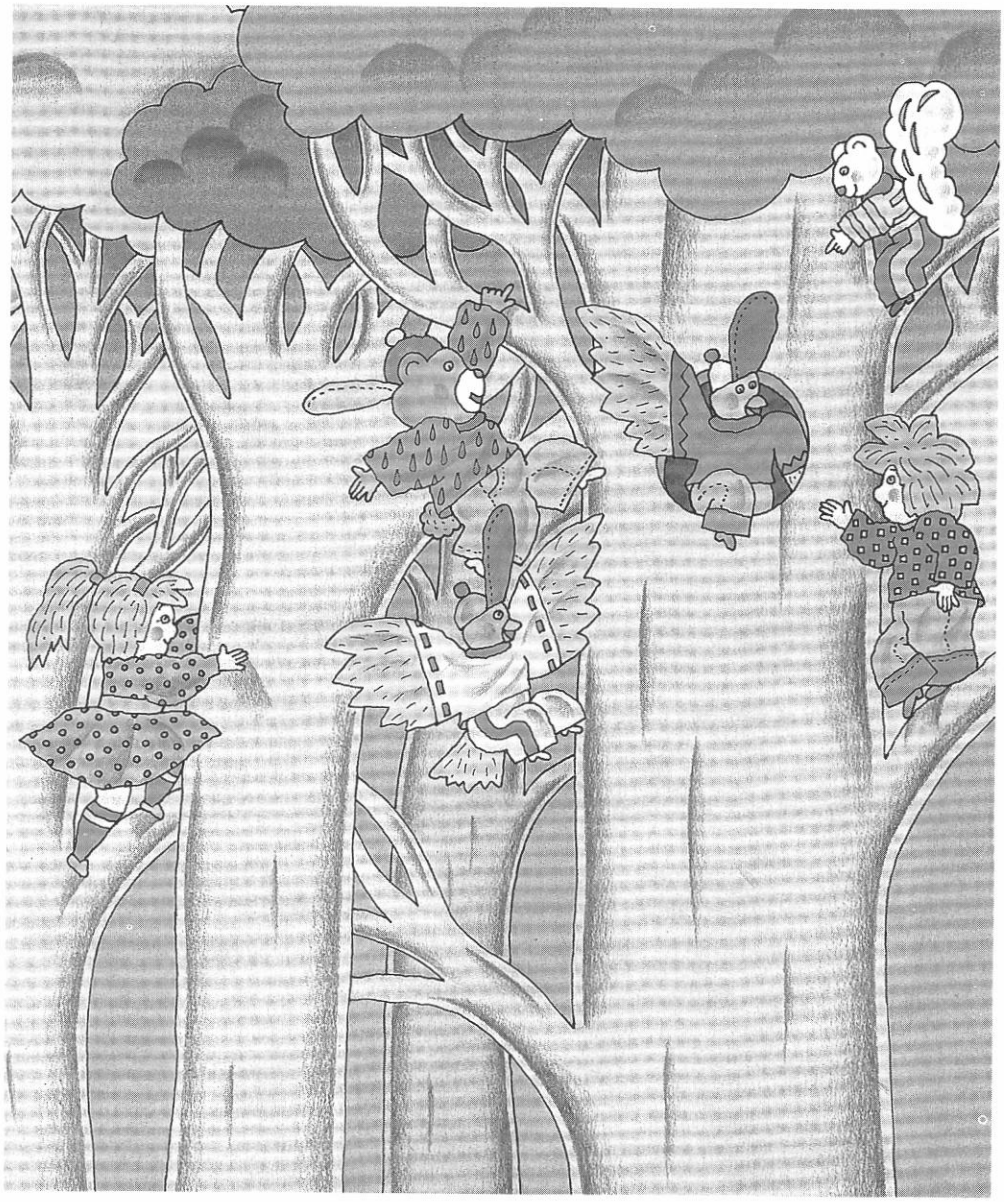
Ⅳ　来てよ、緑の農村公園

来て、見て、
ふれて・・・・・・・



1　なぜ交流なのか……

バブル経済の崩壊後、北海道への観光客数は全体的に減少している一方、農村を訪れる観光客は増加の傾向にあります。

こうした農村観光も、景観を含めた「見る」ものから、「滞在し体験する」ものへと変化しているのが現状です。

農業者も、都市住民のニーズをとらえると共に、地域の発展を目的に、各地で農村交流が進められています。

図１では、農業者、都市の住民、農村地域の、それぞれの立場から農村交流に求める主な項目をまとめてみました。

これを見ると、都市消費者の期待する事柄が、非常に多種多様であることが分かります。

農村の観光も、目的をもってその地に赴き、体験やレクリエーションなどで、都会では味わえない「モノ」を求めようとしているのです。それだけに、農村地域に期待する事も高いことがうかがえます。

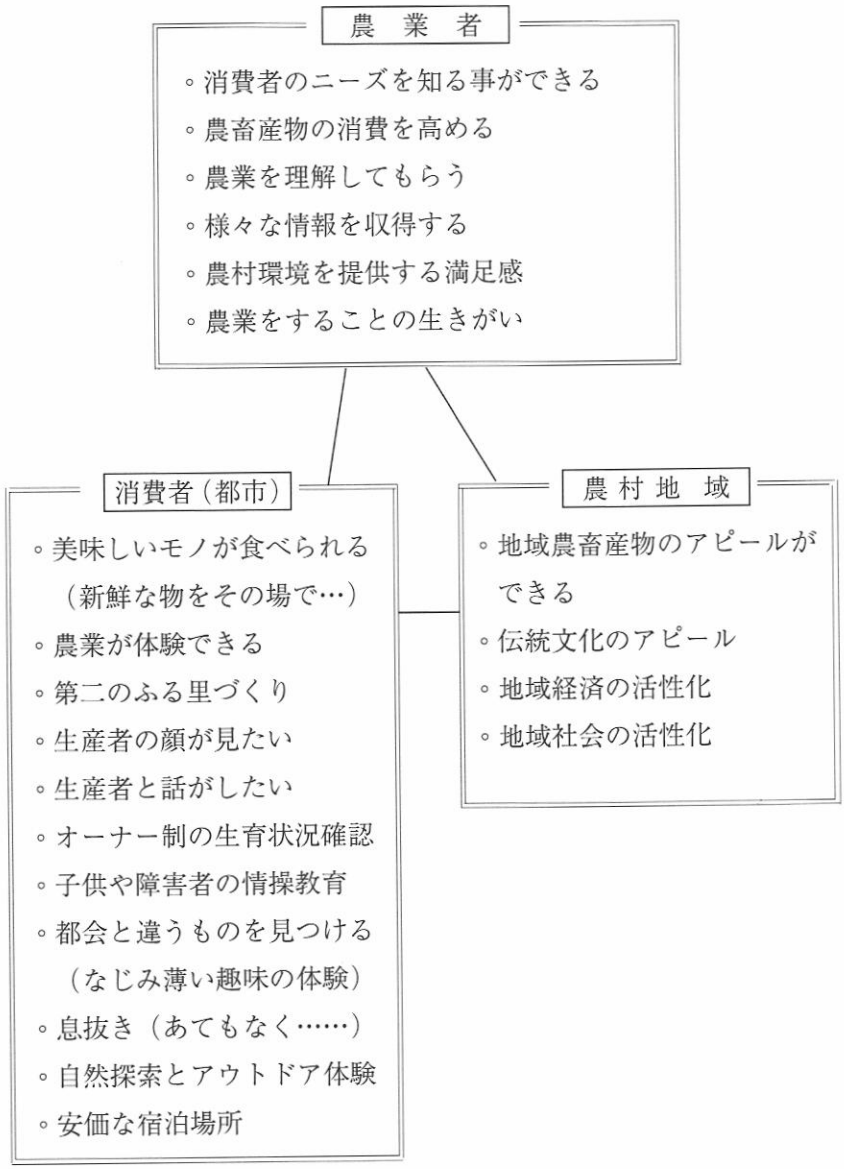


図１　農村交流で望むこと

農業者、農村地域の側から考えるとどうでしょう。

地域と農畜物産をアピールする絶好の機会といえます。農村交流による消費者との太いパイプを結ぶことで、産業を展開することも可能になってきます。

都市と農村の交流も、この道東（畑作、酪農地帯）が、今、北海道の中でも注目されています。（日本の農村地帯でも、稲作農家が少なく、異種的でアメリカやヨーロッパの農村を思わせる。……行ってみたい！　また行きたい！との理由から）